

# 旧中央線の春日井市-多治見市間



一般開放イベントは大勢の来場者でにぎわった(愛知県春日井市)

## 住民ら「地域の宝に」イベントや募金活動

旧国鉄中央線の廃線によって放置されていた愛知県春日井市-岐阜県多治見市間にある明治期のレンガ造りのトンネル群に注目が集まっている。3年前から地元の特定非営利活動法人(NPO法人)が再生に取り組み、11月に開催した一般開放イベントには約1万5千人が詰めかける盛況ぶり。関係者は「自然と調和する貴重な施設。地域の宝になってほしい」と期待を込める。

トンネル群は約8キロ。1900年の開通にあわせ、庄内川沿いの険しいがけを縫うようにレンガ造りのトンネルが14カ所

造られた。66年、現在のJR中央線の電化複線化により廃線となったが、13カ所のトンネルは現在も往時の姿をほぼとどめ

る。春日井市のNPO法人「愛岐トンネル群保存再生委員会」事務局長の村上真善さん(57)らがこ

# 再生廃線トンネル

のトンネル群の存在を知ったのは3年前。地元住民から「山の中に」

こんな場所が残っていたなんて」と驚きの声が上がったほか、トンネルの現役時代を知る人からは「よこそ復活させてくれた」と感謝されたという。募金はこれまでに約350万円が集まり、来年のゴールデンウィーク期間中にも一般公開を行う予定という。

村上さんは「我々は眠っていたトンネルを揺り起こしただけ。今後は地域全体で育て、行政とも連携して地域の宝にした」と話している。

「トンネルがある」と偶然聞いたことがきっかけだった。廃線後に転居してきた村上さんにとって初めて聞く話で「それだけ地域から忘れ去られていたんでしょう」と振り返る。有志で現場に足を踏み入れると、静まりかえった雑木林の中にコケの付着したトンネルの入り口を発見。その後の調査で、同市内にある6カ所のトンネルの土地は、JR東海と愛知県内の民間企業が所有していることが分

かった。村上さんらは一帯を散策路に再生させようと再生委員会を設立。景観や周辺環境の保全活動を始め、約90人のメンバーが清掃や雑草の除去などに取り組んだ。今年5月には企業所有分の土地を買い取るため1500万円を目標に募金活動も始めた。

「山の中には県内最大級とされるモミジなど手つかずの自然が残る。普段は立ち入り禁止だが、委員会は所有企業の許可を得て2年前から年2回、一般公開を実施し、今年2月には、経済産業省から「近代化産業遺産」として認定されるなど知名度も向上。11月の開放イベントでは、ふだんは普通列車しか停車しない最寄り中央線定光寺駅には快速列車が臨時停車し、来場者数は「想定定の5倍」(村上さん)に上った。

来場者からは「身近に